

国指定重要文化財旧済生館本館

# 郷土館だより

No.96

令和 4. 3. 31 発行

開館 50 周年記念号

〒990-0826 山形市霞城町 1 番 1 号

山形市郷土館 TEL/FAX 023 (644) 0253

URL <https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp>

/bunkasports/bunkazai/1006705/index.html

## 旧済生館本館解体復元から郷土館の開館について

元山形市郷土館運営協議会会長

小形 利彦

日本で唯一、明治時代前期の西洋風木造建築「擬洋風建築」の病院遺構として全国にその名を知られる国指定重要文化財、近代化産業遺産指定の「山形市郷土館」が、2011年の「東日本大震災」の激震にも耐え、令和3年4月1日で開館50周年を迎えたことを市民の一人としてお祝いしたい。

旧山形県公立病院済生館の歴史を今に伝える山形市郷土館の源流は、明治9（1876）年、山形県初代県令（県知事）に就任した三島通庸（1835～88）が、大久保利通内務卿から県治の方針を聞かれ「病院を造って患者を救い、医学校を造って医師を育てる。」の柱にしたのが済生館（現、山形市立病院済生館）である。

その前史は明治6年、東村山郡天童村の豪商佐藤伊兵衛氏が孫の死を悲しんで、親戚の山形十日町長谷川吉郎治氏と同村五日町の仏向寺門前付近に私立病院を創設したのがはじまりとされる。その後、山形県公立病院として山形七日町（現、山形銀行本店）に移転、病院と医学寮（医学校）が置かれた。明治8年2月、積雪による倒壊と火災で焼失した。

新病院は現在の済生館の地に造られ、病院本館は明治11年2月に着工して、



明治時代の済生館

三島昌子氏蔵

9月に完成。

ここで、当時の済生館建設座談会の記録を読んでみよう。（ ）は筆者、一部要約。

（建築の棟梁は、山形県十等出仕原口祐之。）済生館は明治8年頃から11年頃迄かかり、図面は山本文吉氏や高橋嘉助氏等がやった。予算も内訳書もなく前金でやり、単価は南室（南病棟）造作を上山の大工が坪当り20人でしたところ損をして夜逃げした。地形の石積み杭打ちもした。（石工は信濃屋仁兵衛が総棟梁として差配した。）（工事は県官吏）島田貞吉氏や山本氏が東京方面を見て来て指導したがペンキのみ東京から三浦勝右衛門氏が来た。建具等は春慶塗り、大工・左官の手間は弁当持で20銭位。屋

根は木羽葺、ドームは亜鉛を重ねて釘打。  
 (木材は筒井館長が左沢から、屋根瓦は  
 県監獄署収監の西南戦争国事犯が焼き、  
 二階講堂に「ヒポクラテス」油彩画・山  
 田成章筆、後に聖人ヒエロニムスと判明  
 が飾られた。)(元山形市議会議長山本竹  
 司著『山形市政夜話』)

このようにして、高さ 24.77 メートルの三  
 層楼が完成した。長谷川元良院長が太  
 政大臣三条実美氏に病院名を請うたと  
 ころ「済生館」と揮毫した。この頃、病  
 院を見たイザベラ・バード女史は「丸屋  
 根の尖塔が付いた大きな二階建の病院  
 は 150 人の患者を収容し医学校になる  
 予定である。」(『日本奥地紀行』)と記し  
 た。

医学校には、明治 7 年 5 月東京医学校  
 教員海瀬敏行氏(置賜県士族)が赴任、  
 診察の傍ら医学寮生に理学・化学・解剖  
 学・生理学を講義した。明治 9 年にな  
 ると新潟県佐渡出身の長谷川元良氏が東  
 京医学校から赴任、講義録は同校御雇外  
 国人教師ホフマン氏の講義録復講であ  
 った。明治 13 年 9 月、御雇外国人医学  
 教師ローレツ氏が医学寮教頭に招聘さ  
 れ、裁判医学・衛生警察学などウイン  
 大学の授業科目を斟酌した授業が行な  
 われ、医員が通訳した。

明治 14 年 9 月 30 日、明治天皇山形御  
 巡幸の御代巡として左大臣有栖川宮  
 熾仁親王等が済生館を訪れた。ローレツ  
 教頭は夕方、行在所で三島県令と明治天  
 皇に拝謁した。

明治 18 年、医学寮は医学校通則第 2  
 条による「山形県医学校」(乙種)に改  
 組されたが同 21 年 3 月、廃止された。

昭和 30 年代、医療技術の進歩と来館  
 者の増加は新構想による病院の実現を  
 期待した。同 36 年 12 月、山形市は「済  
 生館施設整備員会条例」を制定。同 38  
 年から同 41 年 3 月までで全面改築が終  
 了し、明治以来の旧本館が解体か移転か

の大論争に発展した。山形市は審議会に  
 諮問、「市の財政事情もあって廃棄する。」  
 旨の答申を得た。解体直前の同 41 年 12  
 月 5 日、文部省(当時)から国の重要文  
 化財に指定されたのを機に、除去した三  
 階部分を終戦前の偉容に復元して霞城  
 公園に移築「山形市郷土館」として市民  
 に公開することに決した。

結城嘉美山形市教育長(当時)や佐々  
 木仁一山形市医師会常任理事(当時)を  
 中心に山形市教育委員会が市内郷土史  
 家の協力を得て展示資料を収集した。塔  
 屋の三層楼は木造耐震構造、内壁は漆喰  
 を用いた在来工法、下見板張りの外壁は  
 大正初期に描かれた渡辺義一氏(市内黒  
 沢)の「済生館」(油彩画)を参考に塗  
 装が施された。同 46 年 4 月 1 日、金沢  
 忠雄山形市長や関係者が出席して「山形  
 市郷土館開館式」が挙行され、山形ロー  
 タリークラブが建設したローレツ博士  
 のレリーフ除幕式も 6 月 10 日、金沢忠  
 雄市長や伊藤彦六会長、会員が出席して  
 行われた。

山形市郷土館の新たな動きとして「企  
 画展」や「旧済生館本館 3・4 階特別公  
 開」、「多言語化に対応した解説板やパン  
 フレットの作成」、「来館者に対するガイ  
 ドや観光情報の提供」、「マスコミへの情  
 報提供」など多岐にわたる。来館者のア  
 ンケートやブログを見ると概ね好評で  
 あるのは、ほぼ年中無休の開館や職員諸  
 氏の地道な努力の結果である。研究者や  
 マスコミ各社に所蔵資料や情報の提供  
 も行われており、明治 150 年を迎えた平  
 成 30 年、三島通庸の偉業を伝える施設  
 として県内外の新聞社が特集した。

最近公表された「山形の擬洋風建築の  
 特徴とデザイン・モチーフに関する研究」  
 (富田修一氏)は、済生館設計の種明か  
 しに迫る論文である。山形市郷土館が新  
 たな地方文化創造の拠点としてこれま  
 で以上の発展が期待されている。

## 令和3年度の新指定文化財

山形市では、令和3年9月7日付で、4件の文化財を山形市指定文化財として追加指定しました。指定した文化財についてご紹介します。

### 最上家関係書状（追加指定）

【分類】有形文化財（古文書の部）

【所有者】山形市

【所在地】山形市大手町（最上義光歴史館）

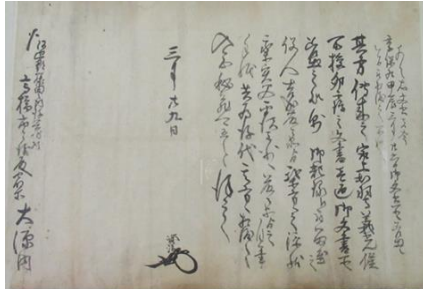
【数量】4通

#### (1) 天正9年（1581）9月12日 最上義光宛行状

最上義光が、現在の秋田県横手周辺の土地を家臣に給与したことを証する文書。天正9年は、現在の山形県最上地方の領主が最上氏の支配下に属する時期ですが、秋田県横手地域の領主たちをも支配下に治めていくことを示す貴重な史料です。



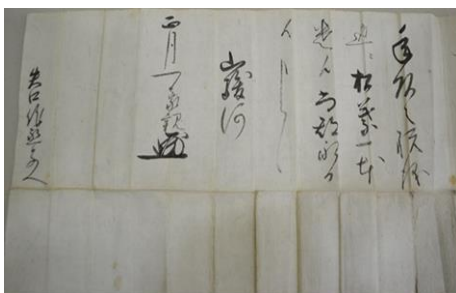
#### (2) 享保9年（1724）3月29日 資清添状



(1)「最上義光宛行状」の元所有者の先祖は、秋田藩の家臣でした。秋田藩では、藩命によって家臣の所蔵する古文書を提出させて記録し編纂していました。それに伴って(1)の文書を秋田藩御文書所へ提出して、そこで記録された上で、改めて所有者に返却されたことを記した文書です。(1)の文書の江戸時代での来歴がわかる貴重な史料です。

#### (3) 慶長17年（1612）正月11日 最上家親一字状

最上家親（最上義光の息子）が家臣である矢口作丞さくのじょうに「親」の一字を与えた文書。主人が自分の名前の一字を与えることを「偏諱」といい、主従関係を意味しています。このころ家親は江戸にいますが、離れた山形の家臣と関係を強固にする動きを示しています。近年、家親に関する研究が進み、史料が少ないながらも再認識されており、これらの研究で使用される貴重な史料です。



#### (4) 年不詳1月1日 最上家親書状

最上家親が家臣の矢口作丞に年始の祝儀として、松葉しょうよう（進物に供えて寸志の意を表すために添えた松の葉ですが、「松葉一本」とあるのでお酒を指すと考えられる）一本を贈ったという内容。(3)と同様に、家親が近い将来に山形藩政に携わる者として山形の家臣と交流していたことを示すもので、家親に関する史料が極めて少ない中で、貴重な史料です。

## 令和3年度 郷土館の事業等

### 1 展示活動

令和3年度は次の企画展を行いました。

- (1) 「令和3年度 山形市郷土館・郷土資料収蔵所 新収蔵品展」(7/1～8/1)  
山形市郷土館及び郷土資料収蔵所に令和2年度に寄贈された大名行列絵巻などの新収蔵品等を展示しました。
- (2) 開館50周年山形市郷土館秋季企画展「山形市郷土館の歴史」(10/9～11/29)  
明治時代初期の貴重な擬洋風建築を今に伝える山形市郷土館。霞城公園に移築・復元され郷土館として開館して50年となりました。その歴史を、年表や、郷土館だよりに掲載された関係者の証言、貴重な写真などで振り返る企画展を開催しました。



- (3) 山形市文化財成果展(1/8～2/6)

令和2年度に実施した発掘調査の成果や新指定文化財、寄贈された資料等に関するパネル及び収蔵品等の展示を行いました。

### 2 イベント

郷土館では、建物の魅力をより多くの方に知っていただくため、3・4階の特別公開を行いました。

#### ○旧済生館本館3・4階特別公開

通常は公開していない郷土館(旧済生館本館)3・4階を見学していただける機会として、特別公開を開催しました。コロナ感染症対策として事前申込制とし、時間を区切って少人数で行いました。今年度は2回(10/2・11/27)開催し、子どもからお年寄りまで、幅広い層の市民からご参加いただきました。

### 3 寄贈等の受け入れ

今年度は、山形ロータリークラブ様より、「山形市郷土館環境整備」として敷地内清掃奉仕活動及び環境整備備品をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

## 令和4年度 郷土館の事業予定

- (1) 旧済生館本館見学会
- (2) 旧済生館本館3・4階特別公開
- (3) 山形市郷土館・郷土資料収蔵所新収蔵品展(6～7月予定)
- (4) 山形市郷土館秋季企画展(9～11月予定)
- (5) 山形市文化財成果展(12～1月)

各事業の詳細は広報やまがたや山形市ホームページ等でお知らせします。

#### 【郷土館事業のお問い合わせ】

山形市 企画調整部文化振興課 文化財係  
〒990-8540 山形県山形市旅籠町2-3-25  
TEL : 023-641-1212 (内線 626/627)  
FAX : 023-624-9618

E-mail : bunka@city.yamagata-yamagata.lg.jp  
※令和3年度より、山形市郷土館は文化振興課が所管しています。